
令和7年度 中間報告

千葉市 海まつり協議会

活動の原点：

テレビの旅番組で千葉駅前の一コマ。誰一人、近くのおススメスポットを答えられなかつた。

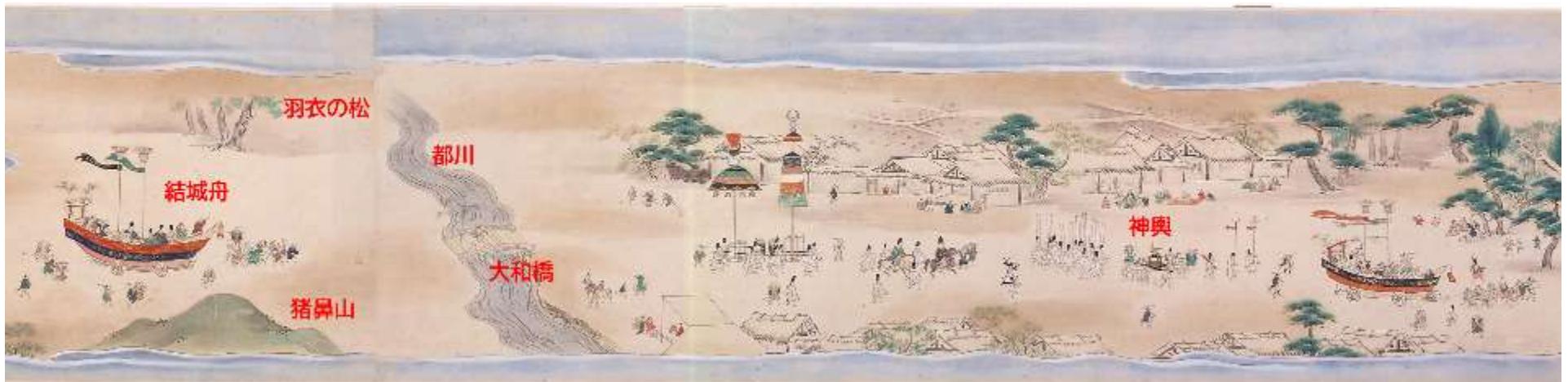
- ・はじめて千葉ブランドが全国区となるきっかけとなつた
千葉市地域文化財「御浜下り」を通じて、
千葉市の歴史的な奥行きを再認識してもらい
「うみ千葉」の文化を市民全体で継承していきたい

■2026年「千葉開府900年」➡シビックプライドの確立の年に

2022	2023	2024	2025	開府900年 2026
始動	啓発	普及	醸成	シビックプライド確立
海まつり協設立	多主体連携	オール千葉市	オール千葉市民	行事開催

【計画の背景】

- かつて千葉のアイデンティティーは「千葉の祭礼」(千葉開府の翌年創始)。メインイベントが御浜下り。
- 千葉町(1400軒)→千葉市(百万人)の成長過程で埋没。人知れず守られてきた。
- 残るのは口碑のみ。啓蒙すら困難。⇒平成4年の絵巻発見でビジュアルが明らかに。
- その後初の周年行事である開府900年で失われたアイデンティティーを取り戻したい。



【年度当初での問題意識】—この3年の取り組みで感じてきたこと—

啓蒙活動により、確実に理解は広まった。しかし市民(や行政)との間に立ちはだかる壁

= **主語が『You』から『I』に変わらない。**

気付いたこと:「祭」の価値を共有できていない。

*千葉方言で「祭」は「マチ」。「待ち」に通じる感覚。

祭礼を待つ一年の暮らし方や(価値)、人智が及ばない当日のため準備を尽くして天に委ねる(感覚)。

①伝統祭礼を中心とする地域で祭とは、364日の日常を過ごすための非日常のハレの1日。

「祭に帰郷するために正月は働く」「同窓会は祭の日に開催」…主語はI

②伝統祭礼が存在しない地域で祭とは、屋台村や商業イベント

「行政サービスのメニューのひとつ」…主語はYou

*社会学者がテレビで祭の効能を説いていたとき、聞き手が意味を全く理解できていなかった。

都市生活者にとって「祭」という言葉に ①の意味は もはや存在していなかった。
文化財としての価値は伝わったが、実社会での重要性が全く伝わっていなかった。

①の価値や感覚を共有し主語が『I』の人を増やすのは、もう不可能なのだろうか。

【地域運営の危機的状況】

祭礼の準備作業を担う実働人数 *屋外の力作業(男性主体)をイメージ。女性主体の作業における人数は含まない。

	新田町	新宿一	新宿二	神明町	出洲港	長洲一	長洲二	末広	港	寒川一	寒川二	寒川三	青年会
65歳以上 86人													
50~64歳 32人													
49歳以下 32人													
(参考)子供会員													

・現役世代の壊滅的状況。

核家族化、戸建て減とマンション増、郊外の新居

・現役世代の大多数が新住民。地元民(地元小中学校卒業生)は10人弱。

地元で育った現役世代が地元に関わろうと思っていない という現実。

*寒川特有?他の町会は?他の都市は?

*自治会内の世代間ギャップも大きな要因。

地域に関わらない住民を量産し続けるこの町。人口減少時代の地域運営は? 大規模災害対応は?

「祭に帰郷するために正月は働く」「同窓会は祭の日に開催」という地域のように
地域に「I」で関わるマインドを、これから醸成するのは不可能なのか?

【「移植型の新興まつり」を参考に】

①札幌市「YOSAKOIソーラン」

1992年：愛知県出身／北大在学中の一人の学生の呼び掛けで創始／高知市「よさこい」をアレンジ。

2025年：人口195万人／観客211万人／参加者27千人：うち札幌市民約1万人（人口の0.5%）*HPより推計
札幌市をコアとする全国区のイベントに成長。

東京ベッドタウン圏からの参加チームが多い。祭礼無い地域の受け皿（千葉市からも2チーム）

②越谷市「南越谷阿波踊り」

1985年：徳島県出身の地元実業家の呼びかけにより創始／徳島市「阿波踊り」を移植。

2025年：人口34万人／観客70万人／参加者6千人：うち越谷市民約2.5千人（人口の0.7%）*HPより推計
日本三大阿波踊り。駅前には「阿波踊り」像。

終了後の片づけ・ゴミ拾いは踊り手が衣装のまま行う伝統。シビックプライドと祭の相関を示す好例。

■伝統祭礼を継承する側として反省すべきこと

- ・伝統祭礼が若い世代の「熱」の受け皿になってこなかった。→受け皿が用意できればまだ諦めは早い。

■微かな光明

- ・人口の1%が「主語がI」となる祭礼文化を作れれば、シビックプライドの確立は不可能ではないのでは。
- ・参加者2千人（中央区人口20万人×1%）の祭礼を毎年反復させるのが直近の目標。

■今後の方針

「説く」（啓蒙）を脱却し、「体感させる」（伝導）に重点を。
ライフスタイルが固まってしまっている大人よりも、こども達に。

【今年度の施策内容】

①山車曳き文化の醸成(次世代育成)

- ・山車曳きの廃止(明治期の電線)が千葉の祭礼文化消滅の原因と推察。
- ・伝統祭礼を継承している都市(佐倉、成田、佐原、館山)の全てに山車曳き文化。
- ・山車曳き:女性や子供が気軽に参加可。囃子や踊り練習は反復性あり地域コミュニティ醸成しやすい。
神輿:男性世界で門戸狭く。各地の祭礼を巡る同好会に組織化され地域基盤につながらない。

②こども御浜下りや歴史教室の継続(次世代育成)

- ・昨年の参加児童が青年になり地域コア人材が輩出されるまで反復実施。

③結城舟の復元に向けての準備

【実施内容① 山車曳き文化の醸成】

・手軽に祭の楽しさを味わってもらえた

道路の真ん中を主役として歩く醍醐味／音楽に合わせてパレードする楽しさ=YOSAKOIソーランと共通
練習不要／扇子を振って歩くだけ／親も（子供の付き添いではなく主役）=YOSAKOIソーランよりも手軽

・各自治会館での他町会役員への接待を廃止、自治会女性役員に祭列に参加してもらった



第1回YOSAKOIソーランの様子
1千人弱のパレードからはじまった
*YOSAKOIソーラン組織委員会HPより引用



8/17(日) 神輿の手曳きの様子
新宿の白幡神社前の片側2車線道路を横断

*車主役の日常 vs 自分が主役の非日常
YOSAKOIソーラン:「街は舞台だ」

①近隣小学校へのチラシ配布。各町会毎に回覧板で告知。



- ②佐倉囃子保存会の協力で御囃子練習会を実施
4回開催／毎回約20名の参加者／子供が半数。



御囃子練習会(寒一町民館)

- ③既存の欄干付き木製台車に木組みの屋根を設えて
山車代わりとした(結城舟を意識)



どこなく舟形山車にも見えてくる屋根つき台車

④寒川の祭礼で御囃子、山車曳きを披露

- ・**御囃子演奏**：約10名の子供が山車に乗り込んで交代で演奏
- ・**山車曳き／神輿手曳き**：氏子12町会×1町会20組＝約250組（500名）の親子が交代で参加
- ・初めて祭列に参加した町会女性役員100名と神輿担ぎ手200名を加えると、、、
総参加者800名（目標2000名） 今後は継続と拡大。



交代で山車に乗り込んで演奏することも達



佐倉市鎌木町手踊り連のお手本
演舞(来年の挑戦課題)



祭=「364日の日常を過ごすための非日常のハレの1日」の
本質を捉えた写真

⑤当日、こどもには水色の扇子80本を配布(30分で終了)

扇子に貼ったNFCタグにスマホをかざすとブラウザを立ち上がり協議会HPの練習日程ページを表示



夕方はまばらだった曳き手も、夜には大人数に

【実施内容② こども御浜下りの継続】

実施した内容

・9／6(土)事前清掃

浜をアイデンティティーの核として未来(=こども)のために地域総出で整える。
寒川小PTA、寒小おやじの会、新宿小PTA、ゆうきBC、海風クルー、淑徳大学渡邊ゼミ、市観光協会等
約60名

・9／7(日)こども御浜下り

五十嵐靖晃「project UMINOUE」と共催、さんばしまつりと連携
参加したこども(親子) 約60組 *昨年のリピーターが多数



チラシ／寒川小、新宿小、幸三小



お神輿ロボ召喚カードの配布

スマホをかざすと、カメラが起動して画面の中にお神輿ロボが現れる。海を背景に記念撮影などに



※千葉市地域文化財「御浜下り」今年は開催見送り

寒川 ⇄ ポートタワー 往復にかかる費用、人手、時間について、寒川地域で負担する意義が問われている。「寒川から集めた金で、臨港地区を賑やかしてやる」



- ・費用: トラック4台
バス3台
移動照明車2台

- ・人手: バスのシートにビニール養生
インカムで車両の進行調整
備品の移動等

- ・時間: 夕方の人出が一番多い時間帯に
地元を不在にするジレンマ

あゝ寒川に浜辺が残っていれば、、、

例年は御浜下りをしている時間帯、
今年は地元に神輿がいることで
地元地域は近年で最高の賑わいに。

未来の「御浜下り」のために
今年は「地元の底上げ」を第一に。

【未実施分】

②のうち、歴史教室の継続

- ・お囃子練習会のときにミニコーナーとして実施するなどして継続

③結城舟の復元にむけて

- ・3Dモデリングを製作し、市民に理解しやすいビジュアルを提示したい。

地域資源デジタルデザイン研究所 高木友貴氏と連携予定

(千葉県文化振興財団アーティストフォローアップ 第一期支援対象)

- ・来年、今年の仮山車の側面を竹で舟形に設えて幕を巡らし、結城舟のプロトタイプとして市民に提示したい。

【参考：結城寒川アイデンティティ推進総合計画】

		千葉全体のため	結城寒川地域のため					
			結城側(都川以北)			寒川側(都川以南)		
寒川神社の祭事		御浜下り ※費用と意義のバランス整合	神輿の渡御					
地域の取り組み	長期策(10年) 地域をになう 子供を育てる	㉔こども御浜下り		㉔囃子連の横展開 ㉔手踊りの横展開			㉔囃子連創設 ㉔手踊り移植 ㉔寒川花火会	㉔近隣町会横断若手プロジェクトチ ーム創設 ㉔寒川小学校庭等での近隣町会合同夏まつり ?都市計画公園の地域交流拠点化
	中期策(5年) 地域をになう 大人を引き込む	㉔project UMINOUE ※県美「海風」から昇華 ㉔浜清掃 *ビーチクリーン部 ※こども御浜下り前日清掃を有志が継承			*新宿 問屋町 結城夏まつり 問屋町	*神明神社 神明町 港町 *厳島神社 餅つき大会		
	短期策(1年) 今年が賑やかに	㉔照明アーティスト連携 ㉔さんはしまつり連携					㉔例祭での露店増	?都市計画公園の お祭り広場化 チ ーム創設 夏まつり

○数字は開始（また実施予定）年度の下 2 術

太字は主体行事